



### キャリア教育 ちょこっと研修 その25 『桐蔭は何を研究開発するの?』

「キャリア通信No.4」で紹介したように、キャリア教育は、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育です。そして育てる能力や態度は「キャリア通信No.8、9」で紹介した「基礎的・汎用的能力」です。そしてその力は、われわれが今まで行ってきた教育活動の中でも十分に行われてきたもので、取り立てて新しいことをするのではないこととお話してきました。そこで疑問がわくと思います。「それじゃ、桐蔭はキャリア教育のいったい何を研究開発するの?」という疑問をもった人はいませんか?その答えは、「キャリア通信No.1」で校長先生が説明している中に書いています。

大学卒業後の彼ら彼女らの生き方にまで責任をもつ教育をしようという強い意志を示した教育、それが桐蔭におけるキャリア教育であるわけです。そのためには、当然「知力」も育てるべき大きなテーマになりますから、(中略)自らの将来との関連性、つまり、自分がどのような人生を歩むのかが見えにくい社会にあって、子どもたちの学びに対する意欲の低下、このことこそが最も大きな現代的教育課題であるにとらえているからです。

(中略)

桐蔭という学校の社会的責任というのは、こうした時代に求められる教育とは何かをしっかりと受け止めることであると思っています。「キャリア教育」は、こうした背景の中で、桐蔭でこそ真剣に取り組むべき教育課題であると考えているわけです。(中略)

この方針に沿ってこれまで進んできた検討事項を整理すると、概ね以下の4点になると考えます。

- ① キャリア教育を数学や英語のように「教科」として教育課程の中に位置づける
- ② 「教科」となるので指導内容と指導計画を今までの実践をもとに、キャリア教育の視点から整理し、系統立てて構築する必要がある
- ③ 「教科」となるので評価規準と評価の方法を開発する必要がある
- ④ 中高一貫校だから、中高の接続の在り方も研究する必要がある

教科としてキャリア教育を創設するにあたっては、「指導内容」、「指導計画」「評価規準」、「評価方法」の開発が不可欠で、キャリア作業部会を中心にこれらの研究を行ってきました。これらのことについては、文科省や運営指導委員会からも指導・助言をもらっています。先進校の視察も行ってきました。

昨年は「桐蔭の学び」の作成が大きな成果となりましたが、今年度は「桐蔭スタンダードテスト」を完成させることで、また1つ、キャリア教育の視点に立った桐蔭学びができあがると思っています。

(文責 歌 保晴 嶋田暢也)